

中田商事 大学生の物流研究に協力 施設案内や自社事例紹介

【三重】中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）は22日、物流を学ぶ大学生の研究に協力し、中田社長が倉庫などの施設を案内するとともに自社の取り組みを紹介した。

東京海洋大学流通情報工学科の黒川研究室（黒川久

幸教授）の4回生増田匡治さんと一丸大毅さんが、本社営業所や倉庫、整備工場などを見学。事前にホームページで調べた情報をベースに、中田氏への聞き取り調査を行った。

「知識の連携と需要創造のための経営改革」が研究

テーマで、①同業他社との連携②荷主など異業種との連携③経営多角化——の観点から物流企業の取り組みを分析。中田氏は、東電運輸（伊坂洋二社長、四日市市）と安全対策で提携した事例や多角化戦略について説明した。

物流会社を初めて見学したという増田さんは「荷物を運ぶだけが仕事ではないと分かり、とても勉強になった」と感想を述べた。研究結果は来月9日に開かれるNS物流研究会（樋口恵一会長）主催の発表会で披露される。

中田氏は「物流業界についてしっかりと勉強していて感心した。毎年、研究発表のために大学生が見学に訪れる。若い世代ならではの柔軟な発想



大学生に経営戦略を説明する中田社長（右）

は、我々経営者にとっても良い刺激になる。発表会当日を楽しみにしている」と話した。